

行政視察等報告

(会派 至誠の会)

<視察目的>

■埼玉県さいたま市

「さいたま市桜環境センターについて」

- ・施設概要（環境啓発施設及び余熱体験施設を含む）
- ・廃棄物処理計画
- ・災害時の廃棄物処理の対応
- ・施設見学

■新潟県上越市

「スマート農業について」

- ・ほ場の超大区画化に併せた次世代型大規模水田経営における用途別多品種米、低コスト・高品質型スマート農業一貫体系の実証
- ・現地視察

■千葉県我孫子市

「提案型公共サービス民営化制度について」

- ・制度化に至る経緯
- ・制度の概要
- ・審査会のメンバー及び審査基準
- ・今後の課題及び対策等

<視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
8月7日	埼玉県さいたま市	さいたま市 桜環境センター	廃棄物処理計画等
8月8日	新潟県上越市	高野生産組合 管理 自動給水栓	スマート農業について
8月9日	千葉県我孫子市	—	提案型公共サービス民営化 制度について

<視察等概要報告>

1. さいたま市

●対応部署 環境局施設部環境施設管理課

【概要】

- ・平成14年一般廃棄物処理基本計画策定から平成26年施設工事完了までの経緯
- ・「桜環境センター」の運営会社（株）エコパークさいたまの案内で施設全館見学

【考察】

DBO（公設民営型）方式が採用され、結果的に特別目的会社が設立され、施設の維持管理、運営が市との契約により順調に進められていると感じた。

総事業費約290億円は、熱回収施設、リサイクルセンター、環境啓発施設管理棟に分類され、それぞれ業務委託され、施設から発生する余熱の活用で浴室など低料金で利用され、35万人余の利用者の実績に驚いた。

発生するゴミの量と処理場の問題から、巨費を投じての施設であるが、PFI方式かDBO方式が適当と思われる。基本計画策定の段階で、国の補助事業、広域的取り組みのあり方等々、十分調査、研究して取り組むべきと思う。

2. 上越市

●対応部署 農林水産部農政課

【概要】

- ・ほ場の超大区画化に併せた次世代型大規模水田経営における用途別多品種米、低コスト・高品質型スマート農業一貫体系の実証に係る資料により、諸施策や上越市の農業の強み弱みの説明を受ける
- ・農事組合（高野生産組合）で管理ほ場での多機能型自動給水栓システムの説明を受け、現地にて操作の実働を見学する。

【考察】

認定農業者の増（法人も増）、集積率の向上、並行してほ場の大区画化、整備率の向上で、田植えや刈り取りが大幅に労力節減が数値として示されていた。

一方で、個別農家減少、離農、さらに耕作条件の悪い中山間地域が大半を占め、平成23年の農家6,438戸が平成30年4,353戸と、約2,000戸強減少している。実態は、スマート農業への取り組みで農業経営の向上を模索されていると感じた。

3. 我孫子市

●対応部署 総務部総務課

【概要】

民の発想で豊かなサービスをキャッチフレーズとした提案型公共サービス民営化制度について、説明資料により経緯や採用実績、募集要領等詳細に説明を受ける。

【考察】

平成 17 年 3 月、当時の市長、福島浩彦氏のトップダウンでスタートし、見直し、修正をしながら今日に至っている。

市の全部局が参加し、行財政改革担当の総務課と担当課が提案者の窓口となり、事前に協議する中で、審査委員会（3 名）と専門委員（1～2 名）にヒアリング、結果を踏まえ市が委託または民営化を決定し、予算化すること。3 年を区切りとし、改めて事業者選定に向かう方策は的を射ていると思う。

効果について、担当課より寄せられているが、施設の包括管理業務等増加の傾向にあり、制度は定着していると感じた。